

まちの話題

八百津中学校へ共同募金会から感謝状を伝達

11月8日、八百津中学校校長室で社会福祉法人岐阜県共同募金会の優良団体感謝状が同会八百津町分会田口博事務局長から伝達されました。八百津中学校は平成18年11月12日を初回として、毎年「八百津町産業文化祭」の会場で生徒が「街頭募金」を続けていることに対して、今回感謝状が贈呈されることになりました。



感謝状を川合康司校長(左)

へボの巣、重量競う / 特産のへボをPR



オークションの様子

11月6日、潮南環境改善センターで「第16回潮南へボ祭り」が行われました。

祭りでは、愛好者が育てたへボ（クロスズメバチ）の巣コンテストや、へボの巣オークション、へボ飯の配布などが行われ、コンテストには38巣が集まりました。コンテストの結果、3.62kgの巣を育て上げた、山田勘弥（八百津町潮見）さんが1位に輝きました。出品された38巣がすべてオークションに出され、1kgあたり1万円前後で取り引きされ、高いのでは3万円前後で落札される巣もありました。

八百津小学校の5、6年生「メノラの灯」熱演



熱演をする八百津小学校5、6年生

11月30日、八百津小学校体育館で、創作劇「メノラの灯」を同校5・6年生の児童らが、約300人の観衆の前で上演し、訪れた観客は、児童らの熱演に惜しめない拍手を贈っていました。この劇は、第2次大戦中に6千人のユダヤ人の命を救った同町出身の外交官、杉原千畝氏によって命を救われた現代のユダヤ人と、日本人の子孫の児童が八百津町の人道の丘公園で出会い、途中に杉原氏の偉業などを紹介しながら、平和の大切さや命のつながり、人への思いやりなどを感じていくストーリーです。

また、劇に先立ち、リトアニアの交換留学生 ギンターレ・シンケビチューテさんとの交流も行われました。

また、劇に先立ち、リトアニアの交換留学生 ギンターレ・シンケビチューテさんとの交流も行われました。



中部大学留学生のシンケビチューテさん